

大念佛

No.94
発行／融 通 念 佛 宗
総本山 大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 吉村暉英

今年もお盆を迎える季節がやってきました。昨年、一昨年はコロナ禍と感染防止のため、お盆の行事も中止や縮小され、自由に帰省することもはばかられました。今夏ウィルスは終息してはおりませんが、感染者も減少し、各種規制も解除され三年ぶりに家族がそろい、にぎやかなお盆を迎えておられるのではないでしょう。か。お盆の行事は関東方面では新盆七月が多く関西では八月に勤められます。月は違っても、ご先祖の精霊をお迎える姿は同じであります。お盆は灯火をぬきに勤めることはできません。十三日夕刻に麻幹の松明を焚いて精霊を迎える迎え火を焚き、軒には迎え提灯、部屋の中では盆灯籠を祀ります。添える花には、ほおずき（提灯を表す）も供えられます。

精霊が帰られる十五日夕、十六日には送り火を灯して無事霊界に帰られます。今年もお盆を迎える季節がやってきました。昨年、一昨年はコロナ禍と感染防止のため、お盆の行事も中止や縮小され、自由に帰省することもはばかられました。今夏ウィルスは終息してはおりませんが、感染者も減少し、各種規制も解除され三年ぶりに家族がそろい、にぎやかなお盆を迎えておられるのではないでしょう。か。お盆の行事は関東方面では新盆七月が多く関西では八月に勤められます。月は違っても、ご先祖の精霊をお迎える姿は同じであります。お盆は灯火をぬきに勤めることはできません。十三日夕刻に麻幹の松明を焚いて精霊を迎える迎え火を焚き、軒には迎え提灯、部屋の中では盆灯籠を祀ります。添える花には、ほおずき（提灯を表す）も供えられます。

お盆の大きな灯火会は京都の大字五山送り火であります。この行事は室町時代が起源といわれ、東山如意ヶ岳（大文字）で最初に点火され、妙法、船形、左大文字、鳥居形と五つの山で順に点火されていきます。この意味は東山大文字で煩惱を焼き

つくり、妙法で法華経を唱え、船形で精霊船に乗り、左大文字で再度煩惱を焼き、鳥居をくぐって精霊さんは冥府に帰って行かれる。大文字の大とは、両手両足を上げた人形を表している。仏教では大の字は人体を表し、人に宿る七十五法の煩惱を焼きつくすとの意味が込められており、如意ヶ岳の大文字はこの七十五法にちなんで七十五箇所の火床よりなっております。五山の送り火が現在のようになったのは、將軍家綱の頃といわれ、ご先祖の精霊送りと国家安穩、疫病退散を祈るお盆の一大行事となりました。

人間は平和な家庭、平和な社会を願いつつ、一方では争い、戦いは絶えることなく続いております。現在ではロシアがウクライナへの侵略戦争を起こし、子供、女性、老人無垢の命が奪われ町も村も破壊尽くされ、何百万人の人々が命を失いながら他国へと逃げておられる姿に心痛め、一刻も早い終戦と平和がおとずれすることを祈ります。日本も先の大戦では三百万人以上の尊い人命の犠牲を出し、国土が焦土と化し、戦争の悲惨さは身に染みております。この戦争は十二月八日お釈迦様の成道の日



祈りの
ともしび（灯火）
融通念佛宗務総長 田中 瑞修

にはご先祖の戒名や三界万霊等さまざまな供養、病氣平癒、身体堅固、世界平和等、祈りの願いが込められております。八時からは施餓鬼法要を終えられた山内の僧侶によって万灯会法要が厳修されます。カップロソクの火は小さな光です。この小さな光が何千、何万と和合すればあの大堂を照らし輝く大きな光となります。一人一人の願い、祈りの力は弱いものであってもその願いが集合すれば大きな祈りの力となります。一人の念仏が同行の念仏に融通し、同行の唱うる念仏が我が唱うる念仏に融通して互いに億百万遍の功德を得ることが出来る、

一人一切人 一切人一人
一行一切行 一切行一行
十界一念 融通念仏
億百万遍 功德圓滿

この五山の送り火と対照的に小さな送り火は京都の嵯峨野化野念佛寺の無縁仏供養万灯会があります。化野の地は平安時代より埋葬の地であり、そのために化野には無数の石仏が埋没散乱していました。この野仏を明治中期、中山通幽和尚がこれを集め、人々がお釈迦様の説法を聞く姿になぞらえ、並べた石塔群であります。この無縁仏、何万とある一体一体にロソクをともし、供養されておき、今日ではお盆の風物として多くの人々がお参りになり無縁仏にロソクをお供えになります。この万灯ロソク供養は暗国にさまよう無祀の霊をあの世、極楽の世へ行くための導きのあかりであります。化野の無縁墓地も一本一本のロソクの明かりが衆縁和合し大きな祈りの炎となり霊を極楽

な世を願う火であります。比叡山の根本中堂では千二百年絶えることなく不滅の法灯が輝き、広島平和公園原爆ドームでは、平和の灯が燃え続けております。



お盆法話

H1法話グランプリ2021

グランプリ 大念寺（寝屋川市）副住職 関本 和弘



おもてなしし、
供養するのです。
お盆の最後は送り火です。十六日の野火を送り火といい、お盆に帰ってきた死者の魂を現世からふたたびあの世へと送り出す行事です。京都五山の送り火が

年々暑さが厳しさを増しているのは気のせいでしょうか。毎年八月のお盆は私たち僧侶にとっては熱中症との戦いです。このときばかりは七月盆の地域を少しうらやましく思うのです。そんなお盆ですが、日本ではお盆は旧暦の七月十五日ごろに行われていました。明治に入り政府が太陽暦を採用したことに伴い新暦の八月十五日ごろがお盆の時期になりました。現在は八月十三日～十六日（地域による）がお盆の期間です。

有名ですね。

そもそも日本のお盆は、仏教の盂蘭盆会や神道の祖先崇拜、農耕儀式など古来からの様々な風習が混じり合って現代に至ったと考えられています。その始まりと言われているのは西暦六〇六年、推古天皇が僧侶を招いて食事や仏事を行った斎会が起源と考えられています。そして平安時代には貴族、武家、僧侶などの上層階級で行われるようになり、その後、江戸時代に入り一般の民衆にお仏壇が広がりお盆の行事も広がっていきま

した。その頃には蠟燭も大量生産で安価に手に入られるようになったため、提灯がお盆の行事にも広く使われるようになり現代の私たちへ定着していきました。そんなお盆の風習ですが現代まで一貫して語り継がれているのが、

古来より私たち日本人は、お盆になるとご先祖様が家に帰って来ると言って、その期間にご先祖様をお迎えする準備をします。十三日の夕方に迎え火を焚き、それ以降精霊棚の故人へ主に食べ物を中心にして帰ってこられたご先祖様を

「お盆になれば死んだ人が帰ってくる」というものです。これらの風習は仏教の教えが身に染みこんでいるというより、地域の昔話として語り継がれた民族史に由来する物が多いように思います。ですが、その習慣の中に、姿は見えずとも大切な故人との静かな語らいがあり、それはやがて離れたい想いとも離れることができるようになります。「お盆になったら死んだ人が帰ってくる」これが死者生者お互いにとってどれほど救いになったことだろうかと深く思うのです。

「お盆になれば死んだ人が帰ってくる」それをとてもよく表している小林一茶の句があります。小林一茶は大念佛寺とも縁があり、山門を通ると一茶の句碑が目に入ります。

「はる風や 順禮ともか ねり 供養」小林一茶が大念佛寺に立ち寄って詠んだ句です。この句から、その時代にも大念佛寺は練供養で有名な様子かと思ひ浮かびます。そんな一茶は信濃国（現在の長野県）の生まれで二十五歳のときに俳諧を学び、寛政四年（二七九二）三十歳の頃より三十六歳まで俳諧の修行のために、近畿・四国・九州を巡り、ここ大念佛寺に來たのは寛政七年（一七九五）三月二十七日、一茶が三十三歳の時だった

そうです。そんな一茶がお盆に詠んだ句の一つが
「形見子や母が来るとて手をたたく」

この句は、今は亡き薬師寺の高田好胤下から教わった句です。一茶は家庭運の恵まれない人でした。自身三歳にして母を亡くした事に始まり、遅く五十二歳にして結婚し家庭を持ちますが恵まれた四人の子どもは全員二歳を越えず夭折します。さらには妻の菊も産後の肥立ちが悪く、三十七歳にしてこの世から旅立ちます。一茶還暦の頃の事でした。たった八年の短い間で自分の家庭全員が自分を残して去って行く。そんな一茶が旅の道中立ち寄った集落で、今まさに妻を亡くし、野辺の送りに向かう一団と出会います。そんな一団が醸し出す空気とは裏腹に裏の丘から笑顔で駆けてくる幼い子どもは年の頃で五歳ほどでしょうか。どうやら葬儀の間、余所へ行って遊んでこいと言われたのでしょうか。そんな幼子が野辺の送りの中にいる父親に話しかけるのです。

「お母ちゃんにしてみるのはんのか？」
父親は喃で含めるように言います。
「お母ちゃんは死なはってん」
「死なはってんって何？」
「死なはったというのとはな、遠い遠いところへ行かはったということや」

子どもにしてみれば遠い所へ行っただけと言ってもいつかは帰ってきってくれると思っております。
「お父ちゃん、お母ちゃん帰ってきてくれはんの？」
「そらおまえみたいなかわいい

子置いて行ってしまうわけないやろ。いつか帰ってきてくれると信じてるわ」そうやって子どもを慰め、自らを慰めるわけです。そら帰ってきてくれはる。きつと帰ってき

てくれはるで。父はそう強く思うことで自らにも言い聞かせるのです。
「いつ？」

いつと言われたら返事に困りますよ。ね。けれどその時に言えるんですよ、私たちは。

「盆になったらな」と。
これを言えるのが救いです。けれど子どもは盆が何かわからない。盆とお母ちゃんが一つになって頭に残るんですね。

それからしばらくして盆のこと

も頭から忘れてた、そんな頃、裏山で子ども達みんなと遊んでおりますと、どこからともなく野良仕事中の村の衆が話しているのが聞こえてきました。

「おー、徳さん。精がでるなあ」
「ああ、元さん、もう盆やよつてな。盆までに一仕事片付けとかんとなあ」

「せやなあ、もう盆やなあ。」
大人の会話はわからずとも盆と聞いてこの幼子は、盆や。お母ちゃん帰ってきはるんや！さあお父

ちゃんにそれを早く教えてやらにや、知らしてやらにやいかんと、「お父ちゃん！盆やで、お母ちゃん帰って来はるんやでー！」そう言って駆け込むように帰ってきた子を見て詠んだ句が、冒頭の句、「形見子や母が来るとて手をたたく」という句です。

まさに家庭運に恵まれなかった一茶だからこそその一句だと思うのです。他にも、「初盆の待ち遠しくて寂しくて」「やかましき老妻今年なし」等々、お盆に対する一茶の心情やその時代のお盆観を垣間見る句が数多く存在します。お盆になったら死んだ人が帰ってくる。このお盆における民族観によって私たち日本人の宗教的土壌が養われてまいりました。親が仏壇にお給仕をする。その姿を見て次世代が育つ。あの祀り方は間違っている。このお祀りはこうすべきだ。など。厳しい意見を言うよりも、亡き人の喜ぶ顔を想像していろんなものを子供えし家族みんなで手を合わせるのが最高の供養なのではないでしょうか。

みなさまにとってお盆が良い語らいの時間となりますことをお祈り申し上げます。

大念佛寺
Instagram
始めました



DAINENBUTSUJI.1117



ひわだ 日和田融通念仏傳承の碑について

融通念佛宗布教師会会長 横田 丈実

南アルプスの山ふところ、乗鞍岳や御嶽山、女工哀史で有名な野麦峠を望む所に、日和田融通念仏傳承の碑があります。宗祖聖大師良忍上人が深い山々にわけいり、念仏勧進をされてから九百年、この念仏勧進を相承することによって、今に至るのが日和田六斎念仏講です。昔は、日和田六斎念仏講の第一の行事は、葬儀の供養奉仕でありました。旦那寺が遠距離にあり、交通不便、経済的理由もあり、寺僧を迎えての葬儀をする者が少なく、すべての葬儀を六斎念仏講がとりおこなっていたそうです。念仏講・念仏講員のことを「六斎衆」と部内では呼んでいます。六斎衆は、



岐阜県高山市高根町日和田字中島垣内

六斎念仏講の中心は念仏和讃でした。和讃は、不動和讃から因果和讃まで三十六編からなっており、それぞれに異なつて唱えられました。葬式念仏和讃は新霊の出生干支によつて、違つた和讃が唱えられ、追善法要のときは、融通和讃を誦讃したそうです。

各和讃にはそれぞれの道形（行列）があり、導師が道形を先導する。講員は紋服、袴の礼装に菅笠（現在は檜笠）をかぶり、一歩ごとに鉦を打ち唱和しながら、導師の後から道形を正確にふみしめて続きます。低い声で悠長な調子の唱讃であつたそうです。

かかる日和田六斎念仏講について、今から三十数年前、当時の管長十石慈健院下、故白井慈勲師や故山本静章師が中心になり、「日和田融通念仏傳承の碑」を建立して頂き

ました。また、日和田六斎念仏講の方々には、以前、万部法要でお渡りをして頂いたこともあり、ところ、今は過疎化が進み、集落内高齢化により日和田六斎念仏講は、次第に衰へ今日では年中行事でさえも中止にいたつております。

今回、故徳田泰秀師や故萩元明久師の強い熱意により、「六斎衆」の講主の原泰弘様から傳承の碑の周辺地の十七坪の寄贈を受けることになりました。

今後、「日和田融通念仏傳承の碑」の玉垣の設置、周辺の整備について布教師会を中心に、ご本山にも御協力をお願いしまして、本年十月中旬完成を目途に進めておりますので、ご協力の程をよろしくお願いします。



況のうちに修めることができたと考えております。

また、今回の万部法要は、本堂内外の様子をライブでとらえ、五日間、終日ホームページ上ではありますが、YouTubeに配信し、多数の方にご視聴していただいています。

さて、今回の万部法要は三年ぶりでありますが、今後令和五年六年は本堂大屋根の葺き替え工事を予定しております。工事が始まると従来の「万部おねり」は本堂を使えず大幅な規模縮小または変更とならざるを得ないこととなります。その節は時期に応じて適宜のご案内となりますが、ご理解ご協力のほどよろしく願ひいたします。

大念佛寺法務部

令和四年大念佛寺万部法要報告

令和四年の万部おねりは、実に三年ぶりの開催となりました。前回は今和元年五月で元号が平成から令和に切り変わつて直後の開催で、それ以来ということになります。コロナ感染が問題となつて二年余りが経ち、まだまだ安心できる状態ではありませんが、あらゆる注意を払いつつ実施にむけて検討を行い開催の運びとなりました。万部おねりを元の姿に戻すという思いのもと、大衆、諸役、諸団体等すべての関係者が力を合わせての開催です。

予定どおり五日間は、午前中に半斎勤行・前行勤行・各種奉納・布教そして午後一時よりお稚児さん

を先頭に恒例の二十五菩薩おねり・万部輿お渡り・菩薩伝供・阿弥陀経誦・供養楽・万部結縁回向・二十五菩薩還御まで一連の次第を滞りなく成満させていただきました。境内では楽邦殿での別回向・宝物館見学・物産展・露店・お茶所における売店と朱印の受付、五日には世界平和祈願護摩供養も執り行いました。本堂内法要では芳村義詮紫金職として吉村暉英大



かんがく 勸学林

僧侶になるには宗派によつて違いはありますが、融通念佛宗におきましてはまず入衆（僧籍登録）を総本山大念佛寺にて行い（満十歳より可）、その後、夏の修行（夏安居）、冬の修行（加行）を受けてその中の勤行、法儀講習等を通して本宗僧侶になるための教養を身に付けます。

それに加えてその学問機関「勸学林」に入学し、一年間通い最後には教師検定に合格し、修行系統とは別の学問系統での資格も必要となります。

江戸時代、僧侶の学問修道場のことを僧侶の集まりを梅檀（センダン科に分類される落葉高木の一）の林に例えて梅檀林とよび、檀林、禅林、学林などとも称されたことから本宗においては「勸学林」と名付けられています。

その始まりは元禄九年（一六九六）東山天皇時代、大通上人が広く融通念佛宗の僧侶、学侶を養成する機関として学問所を開設する許可（綸旨）を受けられたところにあります。これを「檀林勸許」といいます。

その特色は、僧侶だけでなく修学を希望する一般の学侶にまで学習機会を広げる「融通無碍の教え」にあり、勸学林の建学と運営の精神ともなつていて現在でもその趣旨のもと、僧侶以外の多くの一般の方々にも聴講頂いています。

尚、「勸学林」では融通念佛宗

における教義、宗史、声明の講義があり、教義においては大通上人が記された『融通門円章』、『融通念佛信解章』、宗史においては元祖良忍上人、中祖法明上人、再興大通上人の伝記が記された『三祖略伝』、また本宗のお経には不可欠な声明においては『融通声明集』をそれぞれの教材として本宗には欠かすことのできない教養を取得します。

毎年四月に開講され、本宗の僧侶を目指す多くの人が入学しています。これからの変わりゆく時代を担う僧侶が勸学林より多く出てこられることを心より願ひます。

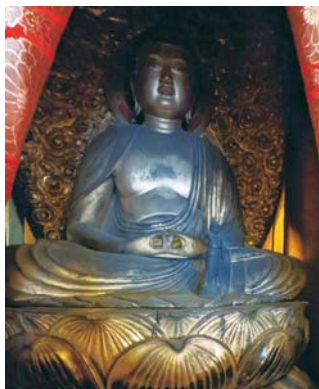
辻 良和





末寺巡礼
しもだ 香性寺
西向山と号す当寺は、香芝市の中心部に位置する下田の地の少し坂を上った高台に建つ。
開基においては詳細は定かではないが本堂裏の墓地には慶長五年（一六〇〇）や同十三年（一六〇八）の地蔵像や五輪塔が在ることからその頃には何らかの形で存在していたことが伺える。
御本尊は阿弥陀如来坐像であり厨子に収められている。その厨子には「天保七申歳九月現住良因上人代御厨子建立惣檀中世話人講中」の銘が見られる。他に堂内には阿弥陀如来立像二体、両手首の欠けた如来坐像、釈迦誕生仏の小金銅像などが安置されている。
現在の本堂は平成二十七年に再建されたものだが以前の本堂は棟札により明和七年（一七七〇）建立と判明しており、鬼瓦には安永二年（一七七二）の銘がある。資料によると当寺は寺子屋として使われていた頃がある。境内には観音堂と地蔵堂があり、観音堂には観音菩薩三十三体、地蔵堂内には石の地蔵菩薩二体が安置されている。

大輪田 西方寺



大和川に掛かる奈良県で唯一の沈下橋「大城橋」から西へ進み、広い田園地を越えると瑞隆山と号す当寺が見えてくる。
開基は中興位牌によると香誉和尚で天和三年（一六八三）に入滅されており、この頃の建立かと思われる。又、由緒の詳細は不明だが、同地における中世の豪族、大輪田氏ゆかりの寺とも云われる。
御本尊は金泥、寄木造の阿弥陀如来坐像で堂内には如意輪観音半跏像、地蔵菩薩立像、聖観音坐像などが安置されている。



大阪奉行所へ提出された『大念佛記録』によると本宗の寺院は浄土宗、真言宗から転宗された事例が多いことが知られるが当寺においても「大輪田村 西方寺 代々看坊当住浄土宗長老静養五年癸丑入寺 来歴不知」と記載されていることから浄土宗と深い関係があったことが伺える。
記録では本堂は天保二年（一八三二）建立、又山門は棟札により寛政元年（一七八九）建立と判明しているが平成十五年に本堂、昭和六十二年に山門、共に改修された。
又、当寺には本山平野大念佛寺再興大通上人手書の過去帳が現存する。

辻 良和

銅板瓦の御寄進を募っています

「瓦勧進のお願い」

大阪府下最大の木造建築物に
あなたの名前を
残しませんか

令和の
本堂大改修
令和6年完成予定

一口
五千円より
随時承ります
銅板瓦へ
「名前」を
記入させて
頂きます

小 径

私には小学五年生、四年生、二年生、七ヶ月の四人の子どもがいます。彼らに普段からいろいろな気づかされることがあります。たとえば、今まで仲良くしていたと思ったら、突然喧嘩を始めたり、そしてまた仲良く遊んだり。親に叱られて泣いていたと思っていたら、笑って甘えたり。その切り替えの早さにとっても驚かされます。その時その場かざりでもコロコロと変わってゆき、すでに先の出来事は忘れていきます。諸行無常です。しかし親はなかなか切替ができません、怒りに任せて怒鳴ったりすると、

その余韻がいつまでも心に残ったりします。前のことを持ち出して来たり、挙句には先のことも想定して怒ったりします。下手をすると二、三日持ち越すということもあるでしょう。またこれが他人同士の揉め事なら、一生引きずるということもあるかもしれません。諸行無常と簡単に言いますが、頭の中は、なかなかそうも行きません。しかし目の前にいつも良い先生である子どもたちがいるので、子どもたちの自然な行動からたくさん学び、できるだけ邪魔しないように導きたいと思っています。

意 築

話せば心も軽くなる

大阪仏教テレホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

月曜日・金曜日（八月休）
でんわ 〇六（六二四五）五二一〇 午後二時～五時迄

年中行事ご案内

- 孟蘭盆・法界大施餓鬼
○八月十六日（火） ■午後六時
- 万灯会
○八月十六日（火） ■午後七時
- 大和御回在御出光
○九月九日（金）
- 融通念仏会
○九月十六日（金） ■午前十一時
ご一緒にお念仏を称えましよう。
- 百万遍会（大数珠繰り）
■午後一時
数珠繰りの後、法主親下の身体堅固のお加持が参詣者一人一人に授けられます。
その後御札授与があります。
- 亀鉦まつり
○十月十五日（土） ■午前十時
本山に伝わる亀鉦をお祀りする法要の後、融通教会会員による詠讃歌舞奉納、「亀鉦由来和讃」等を詠唱します。
- 胎内仏納骨法要
○十一月三日（木 文化の日）
■午前十一時・午後二時
- 十夜会
○十一月十四日（月） ■午後一時
本堂に於いて布教、詠讃歌舞奉納等があります。（厄除がゆ施与）
- 「新型コロナウイルス感染症」の一刻も早い終息と皆様の暮らしが平穏へ向かうよう総本山より祈りを捧げます。
融通念佛宗 総本山 大念佛寺
- 後小松天皇忌
○十二月一日（木） ■午前十一時
- 大和御回在御帰院
○十二月十七日（土）
- 除夜法要
○十二月三十一日（土） ■午後十二時
（鐘撞き、ぜんざい施与）
- 定例布教
○毎月二十六日 ■午後二時三十分
（日曜日の場合は翌日になります）
- 行事予定は変更する場合があります。
- ★写経のご案内
毎月二十六日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経（一巻 千円）を行っております。
- お問い合わせ
大念佛寺宗務所
☎〇六―六七九一―〇〇二六
- 融通念佛宗 総本山
大念佛寺
- 法主 吉村 暲英
宗務総長 田中 瑞修
教学部長 吉井 良久
庶務部長 好野 良博
財務部長 佐々木智祥